

(事例) インドネシアでの在来種の持続可能な利用体制の構築

- 林野庁は、2016～2021年に、ITTOを通じ、**インドネシア**における**在来種の持続可能な利用体制の構築プロジェクト**を支援(拠出額: \$435,187)。

(趣旨)

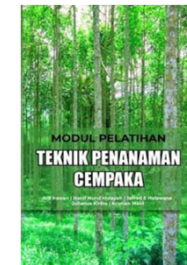
- インドネシア・北スラウェシ州では、在来樹木の**センパカ種**が、**伝統的家屋「ルマ・ウォロアン」の建材**であり、**地域のシンボル**としても**重要な存在**。
- 近年、国内の人口の増加及び国外での需要増に伴いセンパカ種の需要が高まっているものの、**地域住民の造林知識の不足や不安定な種子供給**により、**人工林からの供給体制が追いついていない**。
- このため、インドネシア政府は、ITTOの支援を受けて、北スラウェシ州において、「**住民参加によるセンパカ種資源管理プロジェクト**」を実施。

(成果)

- 同プロジェクトでは、①**地域住民に対する「造林技術改善と意識の向上プログラム」**と、②**地方行政に対する「センパカ種の資源管理能力向上プログラム」**を実施。
- ①においては、「**採種場**」(6か所)や「**人工林**」(3か所・18ha)の**設置**、**住民向け「造林技術マニュアル」**の**作成**、③「**対話**」を通じた**地域住民の造林への理解の醸成**を実施。
- ②においては、**資源量調査に基づく年間許容伐採量の算出**と「**センパカ種管理計画**」の**策定支援**、**合法性を担保するための「標準実施要領」**の**作成**、及び**職員への普及**を実施。
- 同プロジェクトにより、**地域住民と地方行政、苗畑業者・加工業者を含むステークホルダー間**で、**造林の重要性が認識**され、**需要と供給のバランスを図り適切な価格での取引を確保**する事を目標とした**連携体制が確立**された。これにより、今後のセンパカ種の**持続的な活用**が**期待**される。



採種場での発芽試験



住民向け「造林技術マニュアル」



人工林に併設された苗畑での地域住民へのトレーニング

(写真: ITTO)